



亀中だより

No.41 令和4年1月27日 文責:岡田



For The Students!

亀山中学校は市内における外国人児童生徒の教育の「拠点校」として位置付けられ、現在35名の外国につながる生徒が在籍しています。本校では日本語指導が必要な生徒の学習をはじめ、学校生活に適應していくための支援を受けられるよう日本語教室を開設しています。必然的に本校の生徒は、海外の言語や文化、習慣等に触れる機会も増え、多文化共生の学ぶ機会に恵まれているといえます。亀山中学校としては、日本で学ぶ外国の子どもたちが困ることを少なくするだけでなく、日本人の子どもたちが、他国の習慣や考え方を知り、認め合うことのできる人へと成長してほしいと願っているのです。



言葉だけではな^な心のコミュニケーション

遅くなりましたが、2学期の終業式で生徒のみなさんに紹介した話を保護者、地域のみなさんにもご紹介させていただきます。

昨年12月にインドネシアから1年生にエンジさんという編入生をお迎えしました。登校初日には職員室でも挨拶をしてくれましたが、よほどたくさん練習したのでしょうか、とてもはっきりとした日本語で「エンジと呼んでください。よろしくお願いします。」と結んでくれた挨拶はとても印象的でした。日本語はまだ話すことができないと聞いていただけにだれもがびっくりすると同時に、彼女自身のがんばりやで前向きな人柄を誰もが一瞬で感じ取りました。

ある日そんな彼女が、校内の消毒作業をしてくれていたスクールサポートスタッフの小林さんに片言で声をかけたそうです。そのことを小林さんが嬉しそうに「校長先生、いい話があるんですよ」と教えてくれました。以前に紹介した通り小林さんは脳出血が原因で左半身に障害があります。残念ながら二人には共通して理解できる言語がありませんでした。スマホの翻訳機を使って話してみると、エンジさんは小林さんに、「大丈夫ですか、お手伝いしましょうか」と声をかけてくれたそうです。まだ日本に来て間もないエンジさんが言葉も十分ではないにもかかわらず、小林さんの様子を気にかけて声をかけられたことはとても素晴らしいことだなと思いました。言葉よりも心が大切であることも教えてもらった気がします。エンジさん本当にありがとう。

たこ焼きはお好きですか？

みなさんは「たこ焼き」はお好きでしょうか。大阪名物としても知られるたこ焼きですが、お祭りの屋台に限らず、好きな方も多いのではないでしょうか。では、みなさんはたこを食べない国が意外に多いことをご存じでしょうか。日本人が当たり前と思っていることが、他国では全く違う習慣といえることは少なくありません。またそれと同じく、日本人にとっては違和感があっても他国においては日常的であったり、宗教上の意味などから大切な習慣であったりすることもたくさんあるのです。



亀山西小学校に在籍する児童にこのイラストの左の女の子がまとっている「ヒジャブ」というスカーフをつける子どもがいます。これはイスラム教で「自分の肌や身を守るため、大人になるまでつけたほうがよい」と神様にすすめられるのだそうです。日本にはない習慣ですが、日本人が着物を着るのと同じぐらいに当たり前のことなのです。こうした文化や習慣の違いを知り、自分の国の文化を大切にすると同じように、他国の文化も尊重し、大切にできる気持ちや考えを持ってほしいものです。1月17日に各クラスでもこの話を取り上げてもらいました。人権教育、多文化共生教育としても大切なことです。